

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
 - ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 - ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
 - ※3 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
 - #1 1回線送電線のため
 - #2 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 - #3 配電用変電所のため(高圧電源の系統連系の場合、N-1電制は対象外となります。)
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。なお、高圧系統に接続される電源の場合、N-1電制は対象外となります。
- (6) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (7) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (8) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開しておりません。

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	備考
							当該設備	上位系等考慮			
10	小樽線	66	2	164	82	熱容量	21	21	可	82	
12	手稲線	66	2	118	70	熱容量	0	0	可	48	※3
14	手稲線	66	2	86	74	熱容量	0	0	可	12	※3
15	手稲線	66	2	86	43	熱容量	43	0	可	43	
16	銭函支線	66	2	100	74	熱容量	0	0	可	26	※3
18	赤井川特高配電線	33	1	16	16	熱容量	16	10	不可 #1	—	※1
20	他社地中線	66	1	—	—	熱容量	29	21	—	—	◇
30	長橋線	66	2	210	105	熱容量	121	79	可	100	
32	富岡線	66	2	80	40	熱容量	43	43	可	40	
34	色内地中線	66	2	110	60	熱容量	70	70	可	50	
40	国富線	66	2	268	134	熱容量	60	60	可	100	
41	国富線	66	2	176	88	熱容量	19	19	可	88	
43	余市支線	66	2	68	34	熱容量	29	29	可	34	
45	古平線	33	1	7	7	熱容量	0	0	不可 #1	—	※1
50	茅沼線	66	2	118	59	熱容量	59	19	可	59	
51	茅沼線	66	2	44	22	熱容量	18	18	可	22	
52	茅沼線	66	2	44	22	熱容量	23	18	可	22	
54	岩内支線	66	2	118	59	熱容量	62	19	可	59	
56	泊支線	66	2	—	—	熱容量	45	18	—	—	◇
57	泊支線	66	2	—	—	熱容量	45	18	—	—	◇
58	泊支線	66	2	—	—	熱容量	45	18	—	—	◇
59	泊電源1号支線	66	1	—	—	熱容量	24	18	—	—	◇
60	泊電源2号支線	66	1	—	—	熱容量	24	18	—	—	◇
70	俱知安線	66	2	116	58	熱容量	0	0	可	58	
71	俱知安線	66	2	116	58	熱容量	0	0	可	58	
72	俱知安線	66	2	114	57	熱容量	57	0	可	57	
74	比羅夫線	66	1	40	40	熱容量	5	0	不可 #1	—	※1
76	二七〇線	66	1	40	40	熱容量	14	0	不可 #1	—	※1
77	二七〇線	66	1	40	40	熱容量	21	0	不可 #1	—	※1
79	昆布線	66	1	40	40	熱容量	18	0	不可 #1	—	※1
80	昆布線	66	1	40	40	熱容量	17	0	不可 #1	—	※1
82	蘭越線	66	1	17	17	熱容量	12	0	不可 #1	—	※1
84	二七〇夙別支線	66	1	—	—	熱容量	4	0	—	—	◇
85	昆布夙別支線	66	1	—	—	熱容量	1	0	—	—	◇
86	夙別線	66	1	45	45	熱容量	10	0	不可 #1	—	※1
88	他社線	33	1	—	—	熱容量	16	0	—	—	◇
89	寒別支線	66	1	40	40	熱容量	12	0	不可 #1	—	※1
91	留産線	66	1	40	40	熱容量	11	0	不可 #1	—	※1
92	山田支線	66	1	40	40	熱容量	7	0	不可 #1	—	※1

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮			
1	西小樽変電所	187	66	3	300	198	熱容量	79	79	可	100	※2
11	小樽変電所	66	6.6	3	35	20	熱容量	10	10	不可 #3	—	※2
		66	33	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	—	※1
13	新光変電所	66	6.6	2	20	10	熱容量	10	0	不可 #3	—	
17	銭函変電所	66	6.6	2	20	10	熱容量	10	0	不可 #3	—	
19	赤井川配電塔	33	6.6	1	6	6	熱容量	5	5	不可 #3	—	※1
31	長橋変電所	66	6.6	3	45	30	熱容量	12	12	不可 #3	—	※2
33	富岡変電所	66	6.6	2	24	12	熱容量	12	12	不可 #3	—	
35	色内変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	20	20	不可 #3	—	
42	国富変電所	66	6.6	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #3	—	※1
44	余市変電所	66	6.6	3	30	20	熱容量	5	5	不可 #3	—	※2
		66	33	1	10	10	熱容量	0	0	不可 #2	—	※1
46	古平変電所	33	6.6	2	12	6	熱容量	5	0	不可 #3	—	
53	茅沼変電所	66	6.6	2	12	6	熱容量	6	6	不可 #3	—	
55	岩内変電所	66	6.6	3	26	16	熱容量	5	5	不可 #3	—	※2
73	俱知安変電所	66	6.6	3	18	12	熱容量	6	0	不可 #3	—	※2
75	比羅夫変電所	66	6.6	1	10	10	熱容量	10	0	不可 #3	—	※1
78	二七〇変電所	66	6.6	2	16	6	熱容量	6	0	不可 #3	—	
81	昆布変電所	66	6.6	1	3	3	熱容量	3	0	不可 #3	—	※1
83	蘭越変電所	66	6.6	1	6	6	熱容量	6	0	不可 #3	—	※1
87	留産変電所	66	6.6	2	12	6	熱容量	6	0	不可 #3	—	
		66	33	1	—	—	熱容量	6	0	—	—	◇
90	寒別変電所	66	6.6	2	12	6	熱容量	6	0	不可 #3	—	
93	山田変電所	66	6.6	1	15	15	熱容量	15	0	不可 #3	—	※1